

NEW MEMBER

入所のご挨拶

弁護士 高橋尚美

このたび入所いたしました、高橋尚美と申します。学生時代より、外国人住民に対する日本語教育や語学ボランティアの活動に取り組んできた経験から、難民事件や国際家事事件に携わりたいと考え、弁護士を志しました。また、夫が外国籍であることから、外国人の権利をめぐる問題は、家族の暮らしにも直結する身近な問題として、常々意識してまいりました。三言語での対応が可能という強みを活かして、外国にルーツがある方々の事件を中心に、多様化する地域社会の拠り所となるような弁護士を目指してまいります。

高橋 尚美 (76期)
Naomi Takahashi

インタビュー

Q 経歴を簡単に教えてください。

A 東京出身で、大学は東京外国語大学を卒業しました。大学では、スペイン語を専攻していました。

卒業後は、株式会社ニコンに就職し、貿易関係の仕事で4年間していました。

Q 弁護士を目指そうと思ったきっかけは何ですか。

A 一番の理由は、外国人の人権問題にずっと興味があったからです。大学時代に語学ボランティアをしており、そこで、日本に暮らす外国の方の役所等への書類提出手続のお手伝いや、日本語が苦手な子どもたちに対する学習支援などをしていました。大学を卒業してからも、ボランティア活動はずっと継続していました。そのボランティアの中で、外国の方が在留資格等の法的な問題で様々な障害にぶつかるケースや、外国人であることだけが理由でセーフティネットに繋がれないというケースをたくさん見て、もどかしい思いをしてきました。そんな中で、外国人問題に貢献したい、解決したいと強く考えるようになり、一念発起して弁護士を志しました。

Q 日本語以外に対応可能な言語はありますか。

A 大学ではスペイン語を専攻していたので、スペイン語が話せます。英語も読み書きは比較的得意です。

また、韓国語も大学時代に勉強しており、留学経験もあるので、対応可能です。

Q その他、高橋さんの強みを教えてください。

A 自分で言うのは恥ずかしいですが、親しみやすい性格だと思われ、相手に壁を作らず警戒感を与えずに話をする事ができると思います。

また、一度目標を定めたらその目標に向かって粘り強く取り組む性格なので、依頼者の利益のために必要なことは全力で粘り強く取り組むことができると思います。

Q 今後どんな弁護士になりたいですか。

A 困難に陥っている人に対し、最後の最後まで味方であるような弁護士になりたいです。なかなか援助の手が届かない人、他の事務所では取り扱いが難しいケースも、私がお手伝いできることがあるのならば全力で取り組みたいです。

法曹を志す前から、社会というのは多数派のためにあるのではなく、そこに暮らす全ての人のために存在するのだと常々考えてきました。弁護士の仕事を通じて、「誰一人排除されない社会」を作る一助となれたら、これほど嬉しいことはありません。

今後特に注力したい事件は、入管・難民事件や外国人家事事件ですが、総合的ななんでも対応できる弁護士になりたいです。

